



フューチャーセッション：
「みんな」の「つながり」から始まる
ピンクリボン活動
(結果報告レポート9.13)

主催

ピンクリボン活動みやざき

宮崎産業経営大学経営学部



セッションの流れ

1. イントロダクション・自己紹介(15分)

第1回セッションのアイデアを共有しよう。

2. ワールドカフェ(12分×3回)

- ①私を対象者にしてあげたい「つながり」とはどのようなものだろうか？
- ②私(対象者)が「みんな」からしてほしい「つながり」とはどのようなものだろうか？
- ③私が「みんな」にしてあげたい「つながり」とはどのようなものだろうか？

3. クイックプロトタイピング(30分)

具体的な行動としての「みんな」の「つながり」をイラストで表そう。

4. プレゼンテーション・サークル(15分)

優れたアイデアをみんなで共有しよう。

セッションテーマ

- ・ピンクリボン活動が女性だけを対象とするのではなく、全ての人がキープレーヤーであるという観点から、「みんな」の「つながり(行動)」を考えるセッションテーマにしました。

<テーマ設定の意図>

- ・前回のセッションでは、ピンクリボン活動を対象者個人の問題にするのではなく、家族や友人との関係を重視した「みんな」の問題として捉えること。そして、対象者が抱えている不安や課題を解消するために「みんな」との「つながり」が必要であることが提案されました。
- ・「みんな」の「つながり」という観点からは、私たち一人ひとりがピンクリボン活動の主要なメンバーとして行動しなければなりません。この点を踏まえて、今回のセッションでは、私たち一人ひとりが当事者意識を持ち、具体的なピンクリボン活動を行うにはどのようにしたらいいのかを考えることにしました。

セッションの風景①

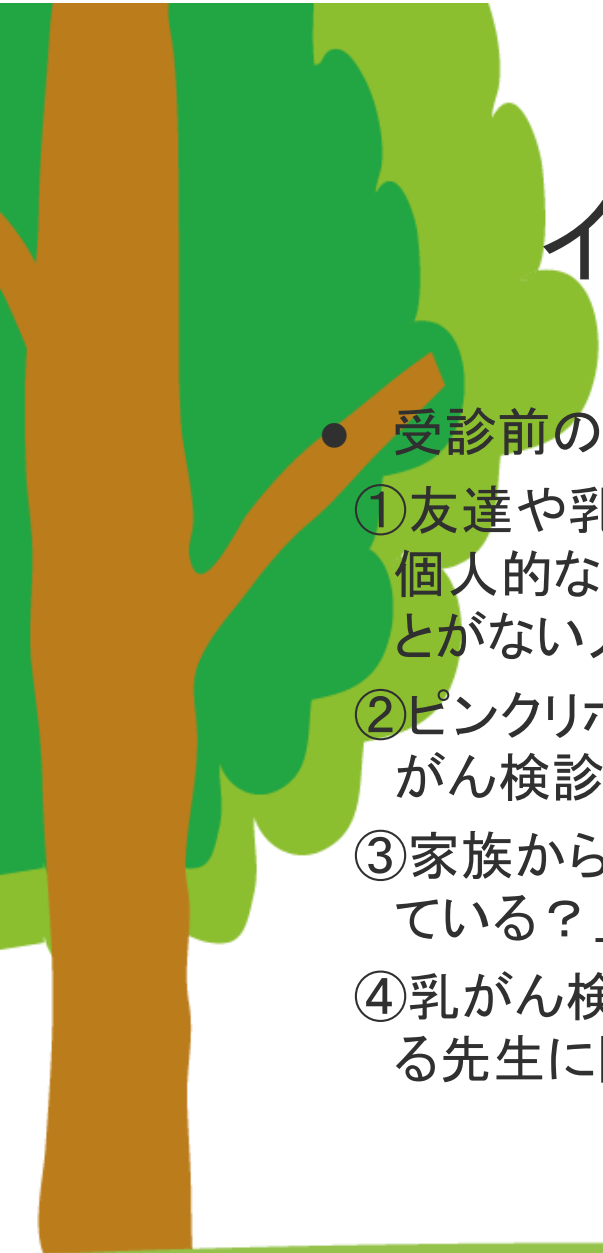
- セッションの参加者は、28名。学生、主婦、患者会、社会人、ピンクリボン担当者など多様な参加者が集まってくれました。
- セッションでは、イントロダクションの後、ワールドカフェを3回転行いました。前回から引き続き参加してくれている人も多く、非常にスムーズに3ラウンドを行うことができました。



セッションの風景②

- ワールドカフェのアイデアを参考に、クイックプロトタイピングとして、2つから3つの「みんなのつながりを表すイラスト」を作成してもらいました。
- ポスター作りの際は、乳がん検診「受診前」「受診時」「受診後」と「誰がその行動をするのか」を意識して描いてもらいました。





イラスト案（乳がん検診受診前）

- 受診前のつながり
 - ① 友達や乳がん検診経験者が相談に乗ってあげる。検診に行く際の個人的な悩み、家庭での問題、時間やお金の問題など、受診したことがない人にいろいろ教えてあげる。
 - ② ピンクリボン活動などをきっかけに、友達同士、主婦仲間などで、乳がん検診についての話題をもっと話す。
 - ③ 家族から対象となるお母さんや妻に対して、「ピンクリボンって知っている？」や「行っておいでよ」と声掛けをする。
 - ④ 乳がん検診担当者や検診経験者が検診受診機関や病院、担当する先生に関する情報をもっと発信する。

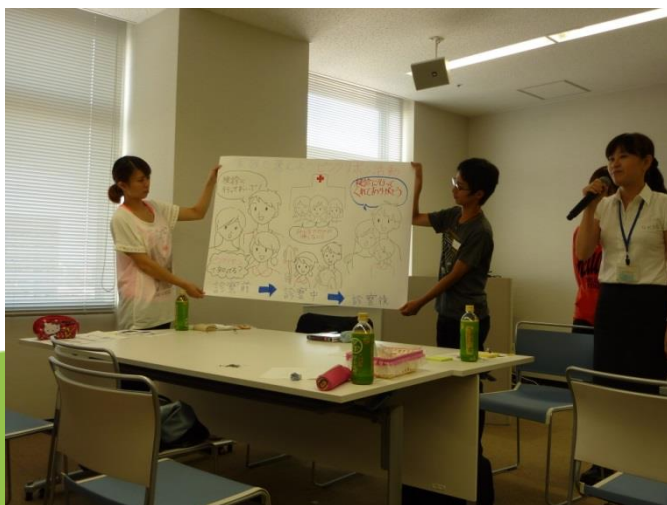
イラスト案（乳がん検診受診時）

- 受診時のつながり
 - ① 友達や乳がん検診経験者が一緒に検診に行っておあげる。みんなで行けば怖くない的なノリで、健診の怖さを克服する。
 - ② 検診をする場所で、乳がん検診経験者が相談にのってくれる。「大丈夫だよ」と声をかけてもらうだけで安心感につながるのでは。
 - ③ お母さんや妻が受診に行っている間、家族が家の掃除やご飯を作ってお待っている。



イラスト案（乳がん検診受診後）

- 受診後のつながり
 - ① 受診してくれた大切な人に感謝の気持ち「ありがとう」と伝える。
 - ② 自分にご褒美を買ってあげる。受診してくれた大切な人にご褒美を買ってあげる。お花がなど。
 - ③ ピンクリボン活動の担当者や医療機関から、ご褒美のクーポンを発行する。



イラスト案(実施者別)

<パートナー(男性)ができること>

- 妻(恋人)が受診している間に、お部屋をお掃除、ご飯を作って待っている。
- 妻(恋人)が受診してくれた感謝の言葉を述べる。
- ご褒美を買ってあげる。

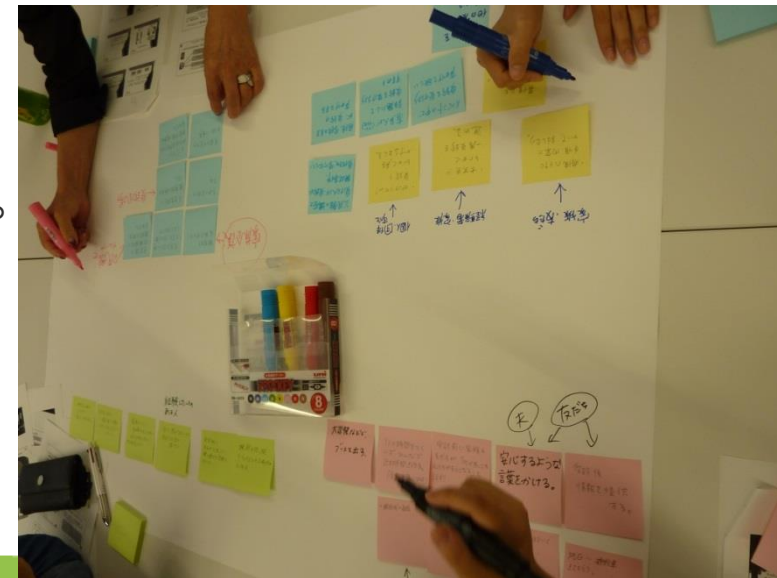
<家族、子どもができること>

- ピンクリボンの話を食卓でする。
- 妻(お母さん)に検診に行く時間を作ってあげる。

<友達ができること>

- みんなでピンクリボンの話をする。
- みんなで検診に行ってみる。
- 受診後の自分たちへのご褒美を考える。

などなど





サークル

- 本日のイラストは、これまでは女性だけを対象としていたリーフレット等にも活用していきます。また、ピンクリボン月間に開催予定である10月のシンポジウムでも報告したいと思っています。
- また、本日作成したイラストのエッセンスは日常生活にも生かせるものが満載。ぜひ、アクションにつなげてみてくださいと伝えて、セッションは終了しました。



セッションを通じての考察①

- 第1回のセッションで浮き彫りになった課題。対象者の不安をどのように解消するかを目的として、今回は「みんな」の「つながり」をイラストを作成してもらった。イラストからは、対象者である女性が、「パートナー(夫、恋人)」「家族」「友達」「経験者」「乳がん検診関係者」に何をしてほしいのかが分かるアイデアが生み出された。同時に、対象となる女性以外の全員が関わることのできるピンクリボン活動が表現されていた。
- 「みんな」が参加するピンクリボン活動は、女性だけでなく全員参加の社会運動になる。また、これまでの一方向性のピンクリボン活動ではなく、線から面と広がっていく「行動のネットワーク」が形成されるのではないかという期待が膨らむものである。



セッションを通じての考察②

- これまでの2回のセッションを通じて、ピンクリボン活動は対象者である女性の健康や生き方を考えるきっかけであったり、みんなのつながりを作ったりと、多くの可能性を秘めていると感じることができた。そこに、ピンクリボン活動の魅力があり、その魅力をもっと発信していくことがピンクリボン活動の普及に役立つのではないかと考えられる。
- また、ピンクリボン活動の魅力を生かすことができる人は、自分や家族の未来も魅力的にすることができるのではないかとと思われる。そのような女性たちが、未来においてどのような考え方や生活を行っているのか。それを考えることで、魅力的な未来の女性のロールモデルも考えてみたら面白いのではないか。

セッションを通じての考察③

- ・未来の女性はどのような考え方で、どのようなライフスタイルで暮らしているのか？
- ・ピンクリボン活動には、どのように関わっているのか？

家庭重視
母性重視
の女性の
未来

健康第一
美しさ第一
の女性の
未来

活動に積
極的に参
加する女性
の未来

みんなとの
つながり第
一の女性
の未来

ピンクリボン
活動の魅力



家庭と仕事
の両立型
の女性の
未来

ピンクリボン活動(乳がん検診)は女性らしさを見直すきっかけになる！